

商経学科

## 新任教員紹介



教授 岩上敏秀

私は、大学卒業後、約三十年間金融業界で仕事をしてきた後に教員となつた実務家教員です。簡単に経歴を振り返ります。一九八七年に都市銀行（現在のメガバンク）に入行し、法人営業や資本市場関連、人事や企画といった業務を中心に約二十年間勤務しました。二〇〇六年に外資系企業に転職し、米系の証券会社やコンサルティング会社、欧州系の銀行などに約十年間勤務しました。会員生活の中でいくつか思い出深い経験があります。一つは、バブル崩壊によって大きな打撃を受けた証券会社の再建プロジェクトです。証券会社の社内に設置されたプロジェクトチームに銀行を代表して参画し、他取引銀行からのメンバーと共に再建計画を立案する仕事です。証券会社の数千人の社員とその家族の生活を大きく左右することになります。当時は働き方改革といった言葉もなく、それこそ寝る間も惜しんで働いていましたが、ふと我に返る時、のしかかる責任の重さを感じると共に、銀行の社会的な役割の大きさを強く認識した経験でした。

また、一九九八年から二〇〇四年まで六年間の米国駐在も思い出深い経験です。最初の五年間はメガバンクのニューヨーク支店に勤務しました。二〇〇一年九月十一日、いわゆる「九・一一」当日も現地にいました。「九・一一」での経験を語りだすと紙面が足りなくなりますので、ここで控えます。ただ、一つだけお伝えするとすれば、アメリカという国底力を目の当たりにしたことです。「九・一一」からしばらくは悲しみに打ちひしがれていましたが、一度前を向きだすと途方もない力強さで歩みだします。現在、米国では、国民の間でのさまざまな分断が言われていました。当時の米国民の結束と、悲しみを乗り越えて前に進むエネルギーを実感した立場としては、アメリカという國の懐の深さと良心、困難な問題を乗り越えていく力を信じたいと思います。米国での最後の一学年に留学し経営学を学びました。キャンパスは、ハイテク産業の中心地シリコン・バレーの中。当時はまだ新興企業だったアマゾン創業者のジェフ・ベゾスが講演に来てそ

れ、チーム内銀行間での利害調整もあり、大変ながらも貴重な経験でした。当時は、入行して八年目、三十歳の若手の頃です。計画は、証券会社の数千人の社員とその家族の生活を大きく左右することになります。

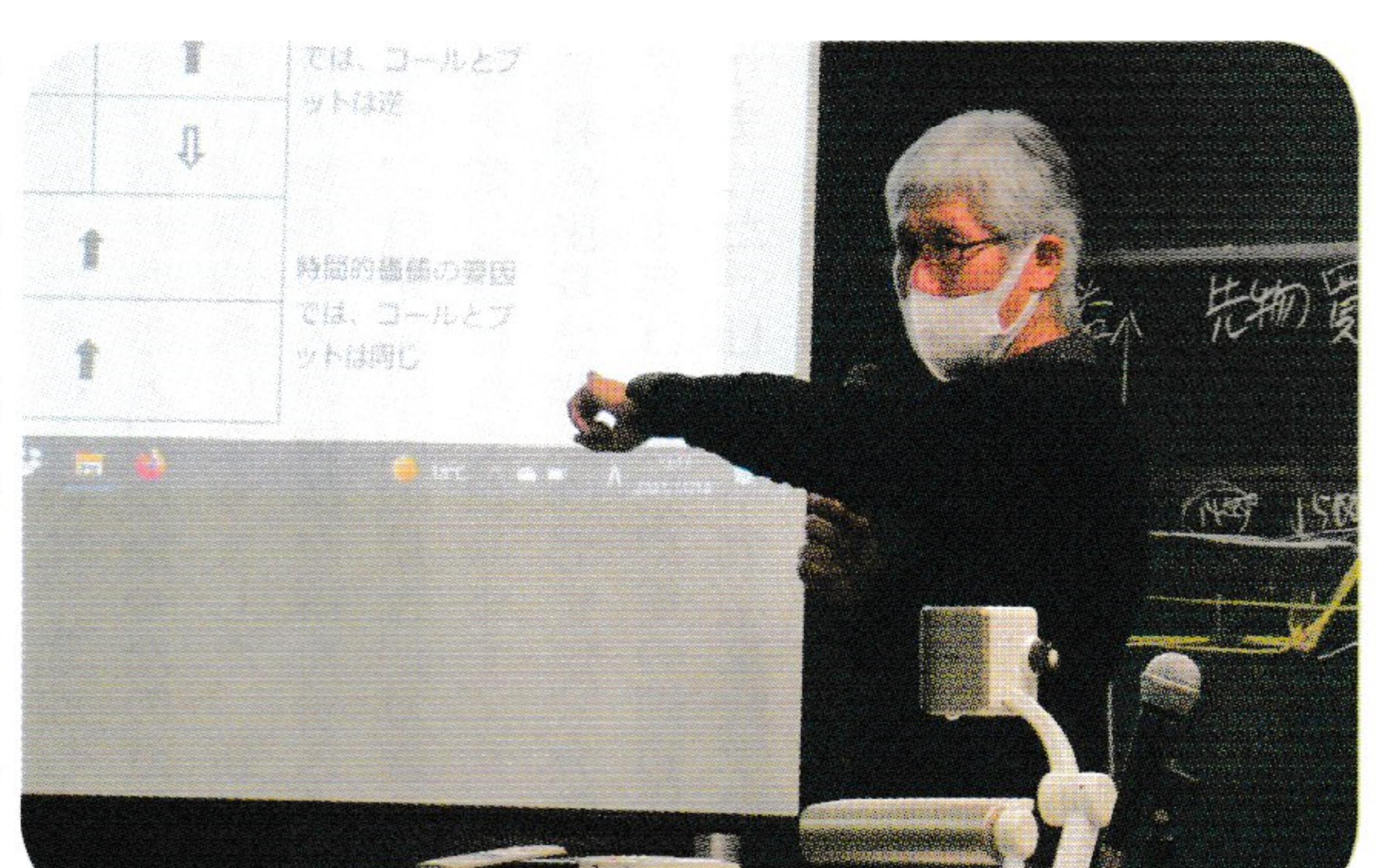
く、それこそ寝る間も惜しんで働いていましたが、ふと我に返る時、のしかかる責任の重さを感じると共に、銀行の社会的な役割の大きさを強く認識した経験でした。

また、二〇〇一年四月に商経学科に着任いたしました近間由幸と申します。県短では、社会政策、労務管理論などの「働く」ということをテーマにした内容を授業で教えておりま

す。若輩ではございますが、本学でのまま学生と世間話をしてくれたこともあります。卒業後世界に散らばった五十四名のクラスメートはかけがえのない財産です。定期的に連絡を取り合ってい

て、コロナが収束し海外渡航が自由になれば、「どこかで集まりたいね」と話しています。

商経学科では金融関連の科目を中心には担当しています。講義に関しても、「ビジネスの現場を感じられるようなライブ感のある講義」、「学生の皆さんにできるだけ多く考えてもらう講義」をテーマに取組んでいます。本学は短大ですので、多くの学生は二年間ないし三年間という短い期間で卒業し、社会に出ていくことになります。ビジネスの現場では、日々正解のない課題に直面し、知恵を出し合いながら業務を動かしていくのが現実です。課題に直面した時に必要なことは、ベースとなる知識、理論面のバックボーン、前例に縛られない柔軟な発想力、論理的な思考



経済学特講I（補講）の様子

また、講義中のみならず、予習・復習を含め、学生が「自分の頭で考える」機会を極力多くつくるように工夫しています。本学の学生に限らずと思いますが、分からぬことがあるとすぐにネット検索して「正しい答え」を探そうとする学生が多いようです。学生の皆さんには、「私からの質問や課題に正しい答えはソモソモ無いです。正解を探す必要はない。皆さんが自分の頭で考えたことであれば、どんなことであれ私は尊重し評価します。考えてください。」と繰り返し話しています。学生の皆さん、自分で考え、判断し、行動できる人間として社会に羽ばたけるよう、少しでもお手伝いが出来ればと思ってています。

今後とも、ご指導をよろしくお願いいたします。



私の出身は山口県の周南市（旧徳山市）という場所で、瀬戸内海沿いの温暖な気候に恵まれた地域です。家の窓からは遠くに新幹線が通る様子を見ることができ、その線路の向こうには製造業、化学メーカーのコンビナート郡が見えるような場所で育ちました。周南市の臨海部には、出光石油化学、ゼオン化成などの企業が工場を立地しており、全国有数のコンビナート郡を形成しております。近年では「周南工場夜景」と名付け、工場夜景を鑑賞するクルーズツアーやバスツアーが行われております。鹿児島という土地に住むのは今年が初めてになります。初めての土地で不安が多かったものの、県短の

二〇二二年四月に商経学科に着任いたしました近間由幸と申します。県短では、社会政策、労務管理論などの「働く」ということをテーマにした内容を授業で教えております。若輩ではございますが、本学での教育・研究活動を通じて、鹿児島県の地域発展に貢献できるよう尽力して参りますので、よろしくお願いいたします。



商経学科

講師 近間由幸

力、そして最後に決断力と実行力です。学生の皆さんには、まずしっかりと基礎的な知識と理論を学んでもらいます。その上で、それらの知識や理論が実際のビジネスの現場どのように関連しているのかを感じて貰えるよう、事例を多く紹介するよう心掛けています。

また、講義中のみならず、予習・復習を含め、学生が「自分の頭で考える」機会を極力多くつくるように工夫しています。本学の学生に限らずと思いますが、分からぬことがあるとすぐにネット検索して「正しい答え」を探そうとする学生が多いようです。学生の皆さんには、「私からの質問や課題に正しい答えはソモソモ無いです。正解を探す必要はない。皆さんが自分の頭で考えたことであれば、どんなことであれ私は尊重し評価します。考えてください。」と繰り返し話しています。学生の皆さん、自分で考え、判断し、行動できる人間として社会に羽ばたけるよう、少しでもお手伝いが出来ればと思っています。

今後とも、ご指導をよろしくお願いいたします。